

## 1. 評価結果概要表

作成日 2008年4月6日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0873700504
法人名	株式会社 いっしん
事業所名	グループホーム いっしん館麻生
所在地 (電話番号)	茨城県行方市石神1685-1 (電話)0299-80-7560

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成20年4月4日	評価確定日	平成20年7月29日

## 【情報提供票より】(20年3月1日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 17 年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 13人, 非常勤 3人, 常勤換算	14.5 人

## (2)建物概要

建物形態	併設 <input checked="" type="radio"/> 単独 <input type="radio"/>	新築 <input checked="" type="radio"/> 改築 <input type="radio"/>
建物構造	木造造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	20,500 円	
敷金	有( ) 円	無 <input checked="" type="radio"/>		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) 円	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,100 円	

## (4)利用者の概要

利用者人数	15 名	男性	4 名	女性	11 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	7 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 77 歳	最低	60 歳	最高	95 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	しほう医院
---------	-------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然が多く残る住宅地に位置し、利用者が昔ながらの近所付き合いを大切にしながら生活できるよう支えているホームである。利用者が明るく迎え入れてくれたのが印象的であった。職員は、利用者のために何が必要なのか、家族とのコミュニケーションを大切にしながら日々のケアを提供している。また、地域との連携にも力を入れ、管理者が積極的に関わりを持っている。今後も、市との連携を図りながらケアの質の向上が期待できるホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)	運営推進会議の定期的な開催に取り組んでいる。また、災害時の非常食の常備を行い、保管場所などの検討を行っている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)	全職員が各項目に取り組み、管理者がまとめている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)	ホームの取り組みや行事報告を常に行い、利用者の家族や他の参加者から議題の提案も受けている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)	苦情受付箱の設置があり、アンケート形式になっている。直接、職員と話す機会もあり、積極的に意見や要望の確認を行っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)	近隣住民から野菜をいただいたり日常的な近所付き合いが行われている。警察署との連携も密にとれている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営規定・基本理念・決め事十則を見やすい場所に掲げてあり、またホーム独自の年間目標を掲げている。しかし、地域密着型としての理念は挙げられていない。	○	法人の理念を基に、ホーム独自の地域密着型としての理念を検討していくことが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	年間目標と共に、理念の共有を常に行いながらケアに取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	警察署の花壇の手入れや、ホームのイベントに地域の方の参加があり、利用者は日々地域住民と関わりを持ちながら生活している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今までのケアの振り返りや確認として、自己評価を前向きに行っている。また、前回の評価の改善点にも取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、定期的で開催している。意見交換や次回の議題の検討など、積極的な取り組みが行われている。		議事録の整備を行うことで、話し合いの内容の確認や経過が解り易くなるよう取り組みを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターとの連携も含め、行政との連携を深めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	写真を多く取り入れ日々の様子を記載したホーム便りを月1回送付している。また、金銭管理についても本部を通し報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情や意見が出た時には、全職員で解決できるよう話し合いがもたれている。本部にも報告を行い、対策を立てるなどの対応がとられている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職に対しては利用者やその家族へ報告し、残った職員がフォローできるような体制作りを行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で行われている研修は充実しており、参加できない職員に対してもDVDと資料の配布で伝達研修がされている。		管理者は外部研修の情報提供を続けていくことで、職員のスキルアップにつながるよう配慮を期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行方警察署主催の「介護サービス事業者交通事故防止対策協議会」に参加し、他の介護施設との交流の場となっている。	○	今後、この協議会を通じて同業者との勉強会などを行い、更なるサービス向上を目指していくことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験利用や体験入所などの機会が今まではなかったが、体制作りは行っている。		地域の方に体験入所などの利用を勧めるなど積極的な活動も含め、体制作りの強化に期待したい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の思いやりに支えられていると職員は感じており、利用者の日常をさりげない形で支えるような関わりが見られた。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に利用者の意思を尊重した関わりに配慮しながら、利用者の希望に添えるよう関わりを持っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者やその家族にどのように過ごしていきたいかの確認を行い、職員同士の情報を集めながら介護計画の作成を行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	申し送り帳、スタッフミーティング、担当者会議などで意見交換と情報の共有をしながら見直しが行われているが、介護計画の目標達成の度合いが曖昧になっている。	○	日々の記録が介護計画に沿った内容となることで、モニタリングの資料として活用していくことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	相談業務は常に行っており、今後はデイサービスやショートステイの体制を整えていく予定である。		今後の取り組みの理解を地域に向けて発信していくことを期待したい。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診と、緊急対応可能な医療機関を確保している。また、ホームに勤務している看護師とも常に情報の共有や相談を行い、健康管理を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者やその家族、医師との連携を図りながら、体制作りを行っていくが、ケアマニュアルの整備などは行っていない。	○	今後、ホームでの看取りを希望した場合、どのようなケアを提供していくかを明確にし、職員も安心してケアが行える環境作りが望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄の言葉かけにも細心の注意を払うよう心がけている。個人情報の管理については徹底しているが、取り扱いについての書式が不足している。	○	守秘義務と個人情報保護についての書式の区別や内容をより明確にすることが望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	地域のならわしや季節の行事を大切にしながら、個々のペースに合わせたケアの提供が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節を感じられる工夫や、希望の食事を取り入れるなど準備から片付けまで楽しみながらの食事となっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個々のリズムや希望に合わせた時間帯での提供や、季節のお風呂も提供されている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活の中から個々の役割を見つけたり、非日常的な活動を入れることで楽しみ事や気晴らしの支援がされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外食や散歩は日ごろから行われている。遠方への外出も計画されており、利用者は楽しみにしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、施錠することはなく夜間のみ施錠している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災想定避難訓練は消防署の協力のもと年2回行われており、非常食の準備もされているが、地震想定訓練は行われていない。	○	地域住民への協力依頼や合同での訓練、避難経路の確認など実施が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	おおよそのカロリーの計算を行いながらバランスのとれた食事提供を心掛けている。糖尿病の利用者に対しても満足感を得てもらえるよう工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花が飾られ、明るく過ごしやすい環境作りに努めている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が大切に使ってきたものを持ち込み、居心地の良い環境となっている。フローリングから畳に換えることも可能となっている。		